

株主のみなさまへ

第26期中間報告書

2023年4月1日～2023年9月30日

株式会社トランスジェニック

証券コード 2342



一人ひとりの健康と豊かな暮らしの実現をめざして



株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
 また、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
 さて、第26期中間事業報告書をお届けするにあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

当社は、「未来に資するとともに、世界の人々の健康と豊かな暮らしの実現に貢献する」ことを目指しております。

当社は、各事業の事業特性に応じた最適な運営体制を構築し機動性の向上を図るために、純粋持株会社体制で事業の管理・運営を行っております。

創薬支援事業においては、株式会社新薬リサーチセンター（以下、新薬リサーチセンター）の中央研究所（北海道恵庭市）で営んでいた非臨床試験受託事業について、株式会社安評センター（以下、安評センター）への事業集約を実行するとともに、2023年11月の当社取締役会において、経営資源集約を通じた更なる事業運営の合理化、営業及び研究開発活動の強化を実現するため、2024年10月1日に新薬リサーチセンターと安評センターとを統合し、統合会社の社名に当社社名「トランスジェニック」を継承し、当社社名については「トランスジェニックグループ」とすることを意思決定いたしました（6ページをご参照ください）。

投資・コンサルティング事業においては、新規M&A等は実行しておりませんが、業績は堅調に推移しております。

今後も引き続き、当社グループは経営資源を有効活用し、持続的企業価値の成長と拡大の早期実現と、各グループ会社間でのシナジー最大化及び成長戦略の実現に向かって、邁進する所存です。

株主の皆様におかれましては、当社の取り組みにご理解をいただき、なお、一層のご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

2023年12月
 代表取締役社長 福永健司

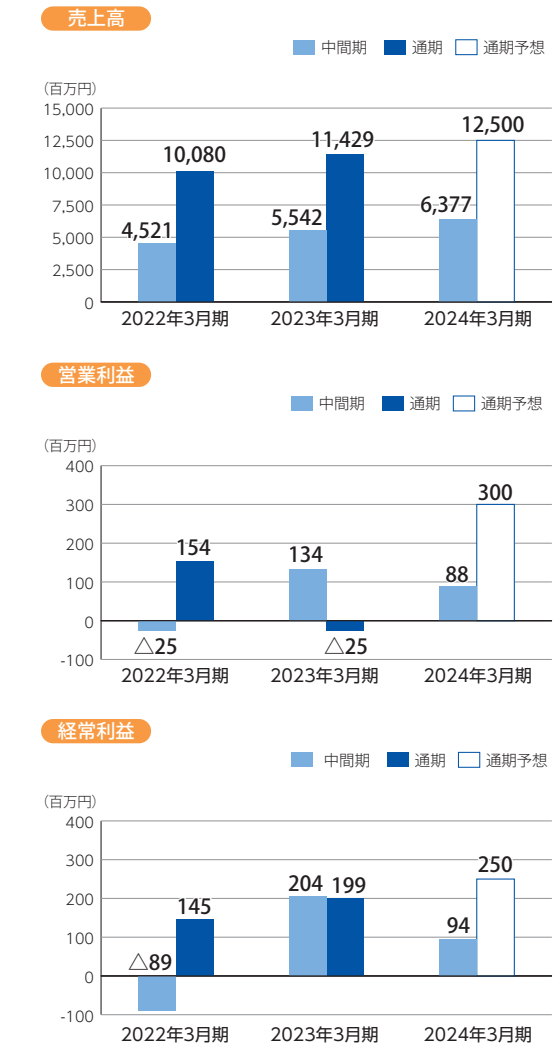
当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症に対する行動規制の緩和により、個人消費の緩やかな回復基調が見られましたが、円安の進行やエネルギー・原材料価格の高騰が継続しており、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような中、創薬支援事業は、新薬リサーチセンターの中央研究所（北海道恵庭市）の非臨床試験受託事業について、安評センターへ人員を再配置し、集約を行うことを2023年4月に決定いたしました。この決定に伴い、中央研究所の主要施設である動物試験施設については既受注試験終了後に計画通り稼働を停止した結果、新薬リサーチセンターの売上高は前年同期比で減少いたしました。一方、安評センターにおいては、新薬リサーチセンターとの顧客網の共有化や一体的な営業により、受託試験の案件数は増えましたが、まだ仕掛中の試験が多いことから当第2四半期連結累計期間の売上高に対する効果は限定的となりました。また、受託案件に占める海外案件比率が増加し、受託試験の規模及び実施期間につきましても、より大型化・長期化した結果、当第2四半期末の受注残は前年同期比で増加したものの、当下半年以降完了予定の試験が多く、売上高は前年同期比で減少いたしました。

投資・コンサルティング事業は、株式会社TGMにおいて大型受注案件が完了したほか、その他の子会社においても価格転嫁及び営業力強化を進めたことで、前年同期比で増収・増益となりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、主として投資・コンサルティング事業の増収により、6,377百万円（前年同期比15.1%増）となりました。しかし、営業利益につきましても88百万円（前年同期比34.3%減）となり、経常利益につきましても、為替差益等の営業外収益41百万円及び支払利息等の営業外費用35百万円を計上した結果、94百万円（前年同期比53.6%減）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましても、法人税、住民税及び事業税32百万円、法人税等調整額19百万円及び非支配株主に帰属する四半期純損失6百万円を計上した結果、48百万円（前年同期比11.7%減）となりました。

◆業績の推移



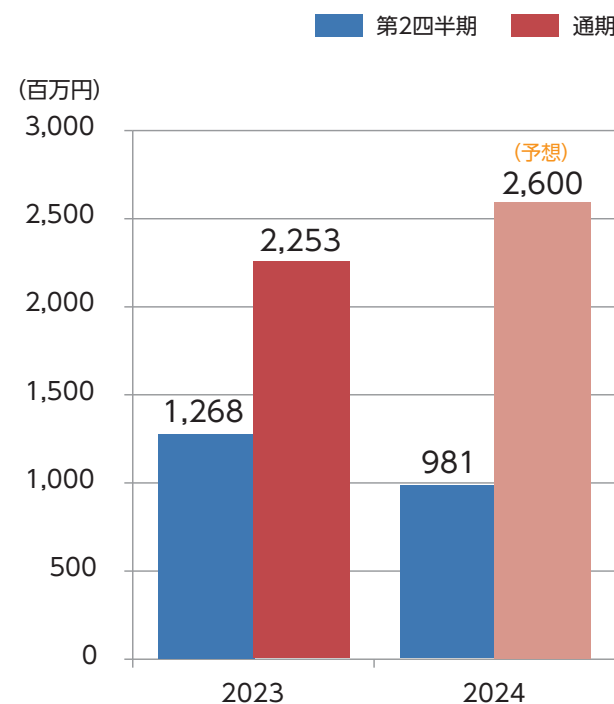
※2022年の業績については、2022年1月に譲渡した診断解析事業を除外しています。

創薬支援事業

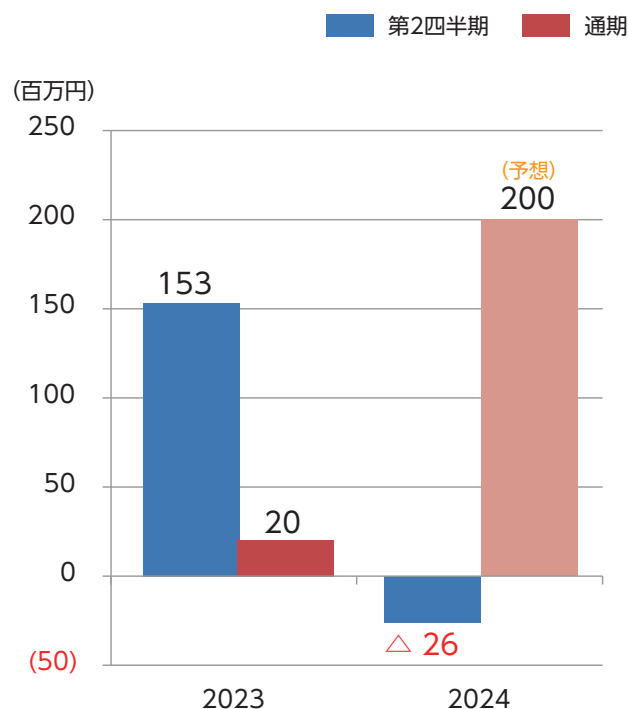
事業構造強化を目的とした、(株)新薬リサーチセンター中央研究所の非臨床試験受託事業の(株)安評センターへの集約過程にあったこと、及び(株)安評センター売上の下期偏重を受け、当第2四半期は減収減益となりました。

通期売上高、営業利益については、受注残及び足元の状況から予想に変更はありません。

売上高



営業利益

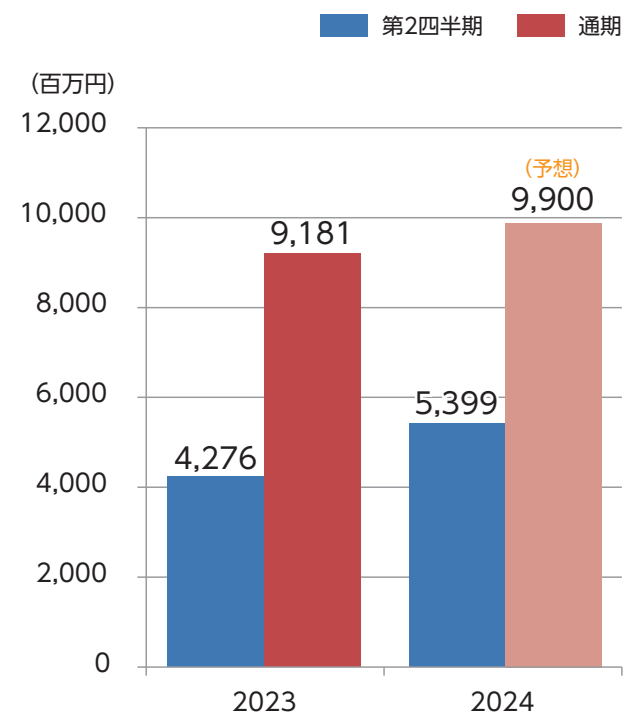


投資・コンサルティング事業

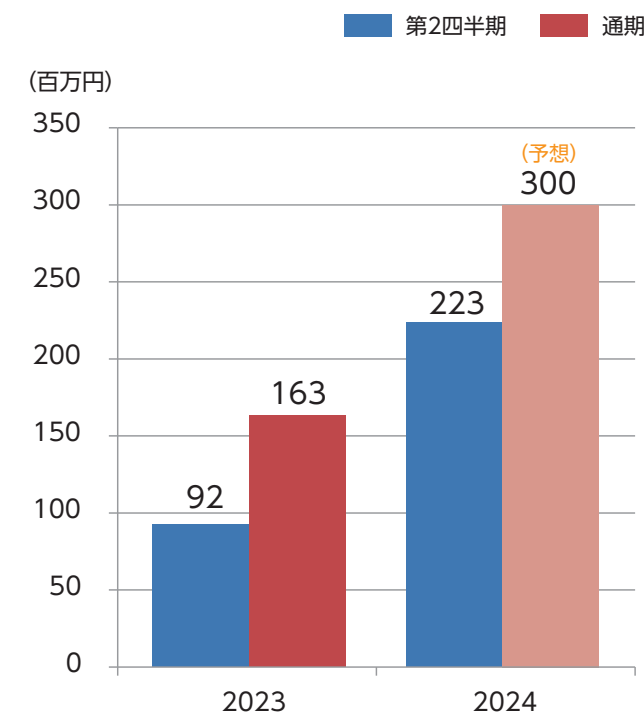
(株)TGM(商社事業)における大型受注案件の完了により売上高が伸長したほか、その他の子会社においても価格転嫁及び営業力強化を進めた結果、増収増益となりました。

通期売上高、営業利益については伸長を見込みますが、保守的に予想し、変更はありません。

売上高



営業利益



●創薬支援事業：事業トピック

（株）安評センター：新規受託サービス「中期発がん性試験」の導入

発がん性関連領域に関する高付加価値な技術・サービスの導入と研究員の採用を積極的に行い、高収益体質への転換を実現します。

概要	優位性	試験プロトコル例
<p>これまで、国内で「中期発がん性試験」を独占的に展開・供給していた企業において、同試験の立上げ及び確立に貢献してきた研究員2名を受け入れて、早期導入及び開始に向けて準備中</p> <p>※2024年度中に開始予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 短期間に高精度で化学物質の発がん性を予測 ▶ 長期がん原性試験の代替法として推奨 ▶ 研究開発費の大幅削減が可能 ▶ 農薬、医薬品等の開発メーカーにおける発がん性評価での高い需要 	<div style="display: flex; flex-direction: column;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>中期皮膚発がん性試験 (標準プロトコル)</p> <p>薬物： CrCl₃ (ICR)、綿子マウス、8週齢 ↓ 7,12-Dimethylbenz[<i>a</i>]anthracene (DMBA), 100 µg/100 µL、経口経皮投与 □ : 試験物質、対照群、低用量、中用量、高用量、陽性対照に相当する、7週/週 ■ : 陽性対照物質 12-O-tetradecanoylphorbol-13-acetate (TPA) 4 µg/200 µL、経皮投与に相当する、2週/週</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>中期肝発がん性試験 (標準プロトコル)</p> <p>薬物： F344 DuCr/Cr1実験用マウス、6週齢 ↓ N-nitrosodimethylamine (DEN), 200 mg/kg BW、経口投与 ▼ : 2/3部分切除手術 (PH) □ : 試験物質、対照群、低用量、中用量、高用量、陽性対照に相当する、7週/週 ■ : 陽性対照物質 Sodium Phenobarbital (S-PB), 500 ppm 飼料投与</p> </div> </div>

●創薬支援事業：研究開発進捗状況

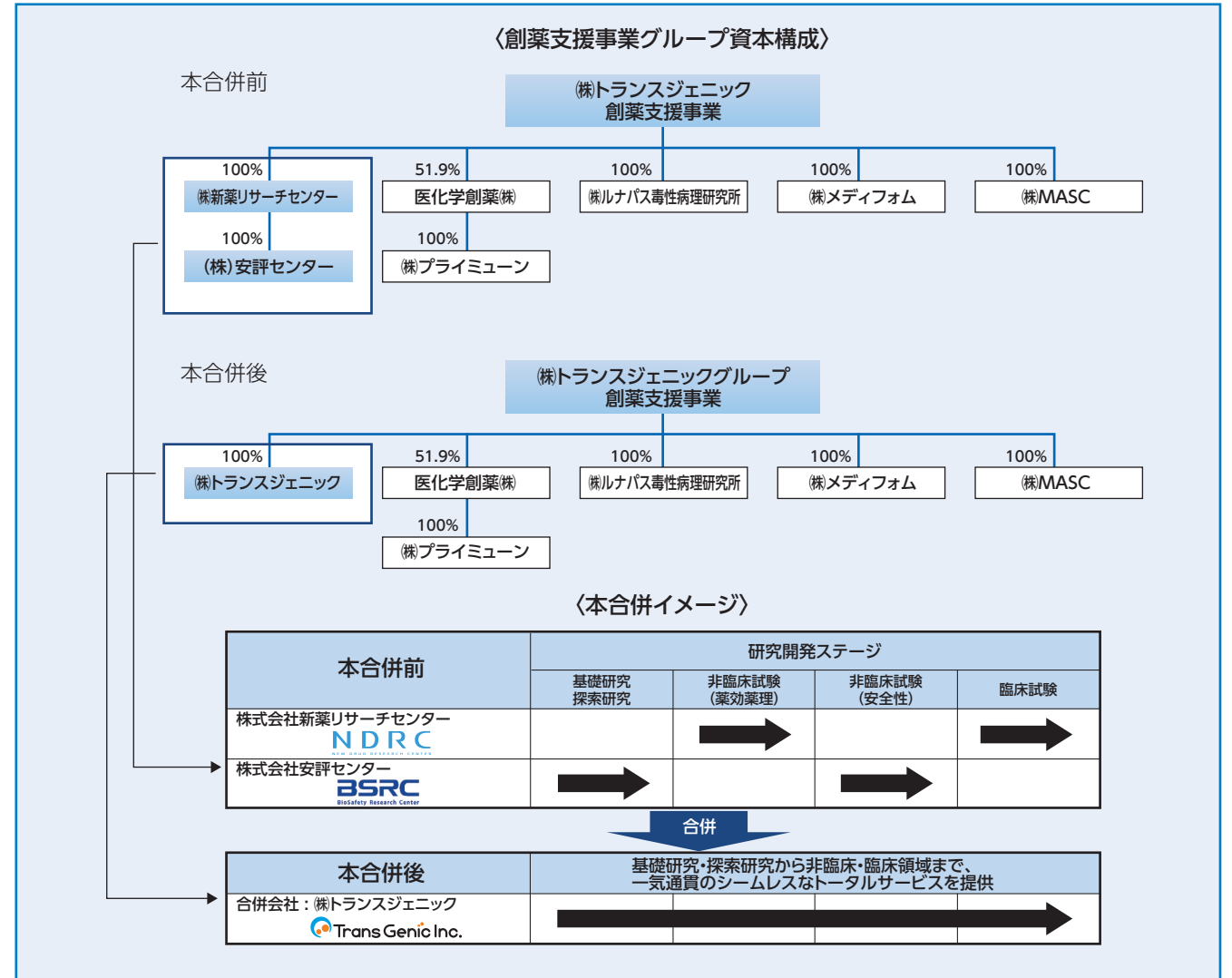
（株）安評センター：（株）アンジェスとのTGZF（トランスジェニックゼブラフィッシュ）共同研究開発

TGZFモデル (F2世代) は完成。今後、薬剤スクリーニングとして活用可能かの検証を経て、創薬スクリーニングサービスを展開予定です。

研究開発内容・目的	開発進捗状況															
<p>BSRC (株)安評センターは炎症性刺激によるGFP発現及び薬剤に対する反応性の確認が可能なTGZFモデルを開発</p> <p>刺激剤を卵黄嚢注射後24時間のGFP発現誘導</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>開発工程</th> <th>進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1)</td> <td>GFPレポータープラスミド及びTransposase発現ベクターの作製</td> <td>完了</td> </tr> <tr> <td>(2)</td> <td>TGZFモデルの作製 (F2)</td> <td>完了</td> </tr> <tr> <td>(3)</td> <td>TGZFモデルの検証</td> <td>完了</td> </tr> <tr> <td>(4)</td> <td>各種薬剤への反応性の確認</td> <td>完了</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">TGZFを用いた 薬剤スクリーニングサービスの開始</p>	No	開発工程	進捗	(1)	GFPレポータープラスミド及びTransposase発現ベクターの作製	完了	(2)	TGZFモデルの作製 (F2)	完了	(3)	TGZFモデルの検証	完了	(4)	各種薬剤への反応性の確認	完了
No	開発工程	進捗														
(1)	GFPレポータープラスミド及びTransposase発現ベクターの作製	完了														
(2)	TGZFモデルの作製 (F2)	完了														
(3)	TGZFモデルの検証	完了														
(4)	各種薬剤への反応性の確認	完了														
<p>AnGes (株)アンジェスは炎症に関連する種々のタイプの薬剤を用いてTGZFモデルの有用性を検証</p>																

●創薬支援事業における吸収合併による組織再編

当社グループの創薬支援事業における組織再編により、経営資源集約を通じた更なる事業運営の合理化、営業の強化を実現いたします。また、両社が有する強みある技術・事業の統合を通じて、シームレスなトータルサービスの提供が可能で、強い競争力を有する創薬支援事業の中核会社を設立し、企業価値の最大化を図ってまいります。



会社概要 2023年9月30日現在

会社名 株式会社トランスジェニック
設立 1998年4月
資本金 50百万円
従業員数 6名(単体) 234名(連結)
事業所
本社 福岡県福岡市中央区天神二丁目3番36号
東京オフィス 東京都千代田区有楽町一丁目7番1号

役員
代表取締役社長 福永 健司 常勤監査役 友永 良二
取締役 北島 俊一 監査役 佐藤 貴夫
取締役 船橋 泰 監査役 本坊 正文
取締役 渡部 一夫
社外取締役 清藤 勉
社外取締役 斎藤 穂高

株式の状況 2023年9月30日現在

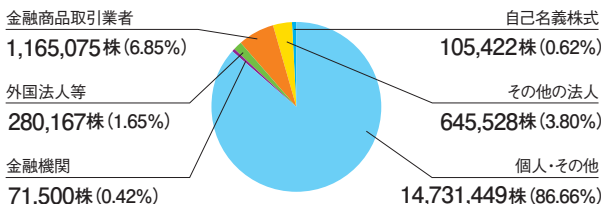
発行可能株式総数 43,630,100株
発行済株式の総数 16,999,141株
株主数 12,154名

大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社SBI証券	587,374	3.47
松井証券株式会社	189,400	1.12
楽天証券株式会社	188,000	1.11
藤井 正樹	173,000	1.02
福永 健司	164,500	0.97
株式会社ムトウ	160,200	0.94
株式会社リムジンインタナショナル	152,900	0.90
原田 育生	150,000	0.88
水越 敦	136,900	0.81
J.P.Morgan Securities plc	121,600	0.71

(注)持株比率は自己株式(105,422株)を控除して計算しております。

所有者別株主分布状況



株主メモ

証券コード 2342
上場市場 東京証券取引所 グロース市場
上場年月日 2002年12月10日
事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
基準日 定時株主総会・期末配当 毎年3月31日
中間配当 毎年9月30日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関
同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒183-0044 東京都府中市日鋼町1-1
TEL: 0120-232-711 (通話料無料)

郵送先
〒137-8081 新東京郵便局私書箱29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
公告方法 電子公告(当社ホームページに掲載)
※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

IRのお知らせ

最新トピックスやホームページの更新情報などを電子メールでお知らせしています。ご登録は当社ホームページにて受け付けています。

<https://www.transgenic.co.jp/>

当社のIR活動についてご意見・ご感想をお聞かせください。
下記アドレスへのご連絡をお待ちしております

ir@transgenic.co.jp

